

## 第2回京都縦貫自動車道の橋梁耐震補強技術検討委員会 議事概要

■日時：令和4年1月21日（金）14:00～16:00

■場所：Web会議（綾部会場、京都会場、他）

■出席者：

玉田 和也(委員長、舞鶴工業高等専門学校建設システム工学科教授)

堀本 恒秀(委員、京都府建設交通部道路建設課長)

小出 美次(委員、京都府道路公社常務理事)

小林 暢彦(委員、京都府道路公社理事・管理事務所長)

藤田 晶久(オブザーバー、国土交通省近畿地方整備局福知山河川国道事務所副所長)

佐溝 純一(オブザーバー、西日本高速道路株式会社関西支社)

■議事概要

1 開会

2 議事

(1) 舞鶴由良川大橋の耐震補強について

《対策工法について》

施工性、維持管理性、経済性の観点から審議を行い、対策工法は支承の免震化、ロックン  
グ構造、制震ダンパー、座屈拘束ブレースでの補強とすることとした。

ただし、照査基準値、アーチ基部の支承の浮き上がり衝突時の照査方法の妥当性及び上揚  
力対策を実施する場合の構造等については、詳細設計での更なる検討を申し送ることとし  
た。

《現況照査での局所的な応答値とその対応について》

現況照査での局所的な応答値の原因について確認した。

その対応（当て板補強、FEM 解析）については詳細設計に検討を申し送ることとした。

《桁端部における段差について》

段差防止構造は段差がほぼ生じない構造とした。

《基礎の照査について》

既設道路橋基礎の耐震性簡易判定フローから、基礎の補強工事は当面不要と判断した。

《支承の健全性について》

点検結果から、アーチ基部の支承が健全であることを確認した。

## (2) 小原橋の耐震補強について

### 《対策工法について》

現況照査結果及び現場の施工条件を踏まえ、対策工法は炭素繊維補強、せん断鉄筋補強、RC 突起、橋座拡幅での補強とすることとした。

ただし、上部工における炭素繊維の定着方法、方杖部の橋脚における炭素繊維の範囲については、詳細設計での更なる検討を申し送ることとした。

### 《桁衝突時の照査について》

支承変位、アンカーバー水平反力、桁相対変位の照査を実施し、本体構造に影響がないことを確認した。

ただし、解析と実挙動の乖離の有無については、詳細設計での更なる検討を申し送ることとした。

### 《桁端部における段差について》

桁端部における段差は生じない構造であることを確認し、対策不要であることを確認した。

### 《基礎の照査について》

既設道路橋基礎の耐震性簡易判定フローから、基礎の補強工事は当面不要と判断した。

## 3 閉会

以上